

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	植草学園大学	学部・学科名 ※	発達教育学部 発達支援教育学科
科目名 ※	教育学入門	単位数 ※	2単位
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	火曜日・1限
キャンパス※	小倉キャンパス	教室※	講義室10・11
学修分野	教養教育科目（基礎科目）		
授業目的 ※	人間や社会に対する理解や生命の尊厳について深く認識し、高い道徳心と倫理観をもって行動できる。		
到達目標	<p>1. 「なぜ人間には教育が必要なのか」という教育の基本原理や学校教育に関して、理解し基礎的な知識を習得する。</p> <p>2. 日本の教育の現状や教育課題について、データや資料に基づいて自らの考えをまとめることができるようになる。</p> <p>3. 教育に関する理解を深めるために積極的に予習・復習に取り組んだり、教育課題を解決することができる方法を考えようとしたりする。</p>		
授業内容	<p>第1回 講義概要の説明：「教育学入門」における学習の目的、授業計画、授業の進め方、授業外の学修、評価方法、グループ・ワークなど （目標1）</p> <p>第2回 人間の成長・発達と教育：「ヒトは教育によって人になる」といわれるが、なぜ人間には教育が必要なのかを学ぶ。 （目標1）</p> <p>第3回 発達の理論①：「子どもの発達段階」、ピアジェ （目標1）</p> <p>第4回 発達の理論②：エリクソン （目標1）</p> <p>第5回 教育目的：学校教育の狙い、目指す人間像。 （目標1）</p> <p>第6回 教育制度①：教育に関する法律 （目標1・2・3）</p> <p>第7回 教育制度②：日本の学校制度</p>		

<p>授業形態 ※</p>	<p>(目標1・2・3) 第8回 教育課程①：現代教科の成立 (目標1・2・3) 第9回 教育課程②：問題解決学習 (目標1・2・3) 第10回 教育政策の動向：学習指導要領の改訂の流れを学ぶ。 (目標1・2・3) 第11回 教育とジェンダー：隠れたカリキュラム、役割取得と社会化とは何か。 (目標1・2・3) 第12回 保育とジェンダー：保育分野にみるジェンダーバイアスとは何か。 (目標1・2・3) 第13回 現代日本の教育課題：(1) 体罰、不登校、いじめ、逸脱 (目標1・2・3) 第14回 現代日本の教育課題：(2) 多文化共生と教育 (目標1・2・3) 第15回 現代日本の教育課題：(3) ESD (education for sustainable development) 持続可能な開発のための教育 (目標1・2・3)</p>
<p>評価方法 ※</p>	<p>授業への取り組み(発言、発表)やリアクションシート、各回の予習復習課題(30%) + 定期試験(70%)の成績を総合して評価する。</p>
<p>評価基準</p>	<p>1. 「なぜ人間には教育が必要なのか」という教育の基本原理や家庭・学校・地域社会の教育役割・機能に関して、理解し基礎的な知識を習得できたか。 2. 日本の教育の現状や教育課題について、データや資料に基づいて自らの考えをまとめることができたか。 3. 教育に関する理解を深めるために積極的に予習・復習に取り組んだり、教育課題を解決することができる方法を考えようとしたりしたか。</p>
<p>テキスト</p>	<p>書籍名 『教育の基礎と展開 (第2版) -豊かな教育・保育を目指して-』 著書名 高野良子・武内清編 著 出版社 学文社 価 格 2000円+税 ISBN・ISSN 978-4-7620-2806</p>
<p>注意事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自覚的・主体的・能動的な受講が望まれる。 ・講義だけでなく、グループ・ディスカッションや発表などの活動を組み込み、双方向・参加型授業につとめる。
<p>授業シラバス</p>	<p>https://118.21.56.20/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_Syl</p>

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉経済大学短期大学部	学部・学科名 ※	ビジネスライフ学科
科目名 ※	観光ビジネスⅠ	単位数 ※	2
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	火・1
キャンパス※	千葉経済大学短期大学部	教室※	301
学修分野	卒業認定・学位授与の方針中のキャリアアップステージに位置づけられます。		
授業目的 ※	<p>観光は旅行業、宿泊業をはじめとして運輸業、飲食業などいろいろな産業と関連して地域の雇用創出に役立っています。千葉県には全国トップの観光施設である東京ディズニーリゾートや国内外から多くの人が集う幕張メッセなどがあります。観光による地域活性化に取り組んでいる事例を見ながら観光の現状を学びます。ウイズコロナでのインバウンド戦略なども考えます。</p> <p>観光振興や国際会議の誘致などの担当教員の実務経験に基づいて、観光ビジネスの様々なネットワークによる事業展開の事例を紹介しますので、観光ビジネスの魅力を理解することができます。</p> <p>観光ビジネスに従事しているゲストスピーカー（旅行業など）の講義も行う予定です。</p>		
到達目標	<p>①地域活性化事例から現状の観光ビジネスを理解する。</p> <p>②観光ビジネスの具体的なイメージを持ち、進路決定に役立てる。</p>		
授業内容 授業形態 ※	<p>以下の内容で進める予定です。</p> <p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 千葉県観光の現状</p> <p>第3回 日本の観光振興状況</p> <p>第4回 グリーンブルーツーリズム</p> <p>第5回 産業インフラの効果（1）</p> <p>第6回 産業インフラの効果（2）</p> <p>第7回 観光資源（1）</p> <p>第8回 観光資源（2）</p> <p>第9回 国際観光（インバウンドの効果）（1）</p> <p>第10回 国際観光（インバウンドの効果）（2）</p> <p>第11回 地域の活性化事例（1）</p> <p>第12回 地域の活性化事例（2）</p> <p>第13回 観光ビジネスで働くこと</p> <p>第14回 ホスピタリティマインド</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 ※	テスト（40％）、レポート（40％）、授業への取組み能動性（20％）を総合的に評価します。		
評価基準			
テキスト	指定なし。授業時に資料等を配布します。		
注意事項	特になし。		
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/Syllabus/SyllabusInput.asp?nendo=2023&cDSL=1915		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	淑徳大学	学部・学科名 ※	総合福祉 コミュニティ政策
科目名 ※	地域政策論	単位数 ※	2
開講学期※	2023年度 前学期	曜日・時限 ※	火曜2限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	
学修分野			
授業目的 ※	グローバル化の進展に伴って、経済社会環境は大きく変化してきている。そのような環境変化の中で、受講生個々人が地域を構成する一員として、地域を発展させるための解決策について考えられるようになる。		
到達目標	地域の産業構造を捉えるための力を養う 経済学の理論をベースに地域の課題を捉えられるようになる 上記の知見を基礎にして、地域政策の提言ができる		
授業内容 授業形態 ※	地域経済論の基礎的な理論の他、地域産業をテーマに地域で実際に起きている環境変化を紹介し、地域でどのような政策を実施すべきかを考えられるよう授業を実施する。また場合に依じて、地域の実務者を招いてディスカッションをする機会を設ける。 基本的には講義形式の授業を行うが、アクティブラーニングの手法を活用する。授業内で数回グループワークを求めることがある。また各授業の終わりに授業内レポートの提出を求める。 その際、インターネット等を通じて調査をしたり、データを集計することが必要であることがあり、各自、適切なデバイス（PC・タブレット等）を持参することが望ましい。		
評価方法 ※	成績評価は授業内レポート、中間レポート、期末レポート、授業貢献度により総合的に判断する。		
評価基準	授業内レポート 20% 中間レポート 30% 期末レポート 40% その他（グループワークへの参加回数、授業での発言数） 10% S:100～90点、A：89～80点、B：79～70点、C：69～60点、D：60点未満		
テキスト	※この科目では指定の教科書はありません。授業内で使用する資料等については、別途授業内でご案内いたします。		
注意事項	予習・復習を欠かさないこと。		
授業シラバス	「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。 https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉経済大学	学部・学科名 ※	経済学部・経済学科
科目名 ※	労働経済学Ⅰ	単位数 ※	2
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	火-2
キャンパス※		教室※	208
学修分野			
授業目的 ※	<p>時給の高いアルバイトと時給の低いアルバイトがあるのは、なぜでしょうか。大学生の就職内定率は、なぜ景気に影響を受けるのでしょうか。</p> <p>労働市場について学ぶことは、経済分析にとって重要であるだけでなく、就職を控えた学生の皆さんがこれから直面する環境を知るという意味でも重要となるでしょう。</p> <p>この講義では、数学的モデルを用いて労働経済学の基本的な理論を習得し、日本の労働市場の現状や労働市場が直面している変化を理解できるようになることを目的とします。</p> <p>なお、この科目は卒業認定・学位授与の方針のうち、特に【（知識、技能）（思考力、判断力、表現力等）】に資する科目です。</p>		
到達目標	<p>数学的モデルを用いて、家計の労働供給や企業の労働需要に関する意思決定や、労働市場均衡について理解できることを目標とします。</p>		
授業内容 授業形態 ※	<p>第1回</p> <p>① 数学の知識（一時関数、微分など）を確認するためのテストの実施</p> <p>② 労働経済学Ⅰを学ぶ意義・講義内容の紹介</p> <p>第2回 労働供給（1）制約条件、選好</p> <p>第3回 労働供給（2）制約条件下の効用最大化問題</p> <p>第4回 労働供給（3）比較静学分析</p> <p>第5回 労働供給（4）静学的労働供給モデルの応用</p> <p>第6回 家計内生産モデル</p> <p>第7回 家計内生産モデルの応用</p> <p>第8回 労働需要（1）生産技術</p> <p>第9回 労働需要（2）利潤最大化問題</p> <p>第10回 労働需要（3）短期の労働需要</p> <p>第11回 労働需要（4）長期の労働需要</p> <p>第12回 労働需要（5）静学的労働需要モデルの応用</p> <p>第13回 労働市場均衡モデル</p> <p>第14回 労働市場均衡モデルの応用（1）給与税の効果</p> <p>第15回 労働市場均衡モデルの応用（2）移民受け入れの効果</p>		
評価方法 ※	<p>課題 20%、期末試験 80% の加重平均による成績評価とします。</p> <p>課題については、授業内で解説をおこないます。</p>		
評価基準			
テキスト	<p>大森 義明 (2008) 『労働経済学』 日本評論社</p>		

注意事項	<p>(1) 「初級ミクロ経済学」・「経済経営数学入門Ⅰ・Ⅱ」を履修済み、または履修予定であることを望みます。</p> <p>(2) 他の受講生の迷惑になる行為（私語、途中退出、遅刻等）は一切禁止します。注意が守られない場合、以後の講義への参加を認めない等、厳しく対処します。</p> <p>(3) 第1回目の数学の知識を確認するためのテストを受けてください。受講生の習熟度に応じて、必要であれば復習の時間を設けます。</p> <p>(4) 座席は指定します。</p>
授業シラバス	<p>https://syllabus.cku.ac.jp/syllabusgaku/default.asp?cdga=1</p>

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	帝京平成大学	学部・学科名 ※	健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科
科目名 ※	トレーニング科学	単位数 ※	2単位
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	火曜日2限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	6-205
学修分野			
授業目的 ※	トレーニング科学は、健康増進から体力強化、スポーツ愛好家から競技者、子どもから高齢者まで、目的や年齢の異なる幅広い人を対象とした学問です。		
到達目標	運動専門家に必要とされるトレーニングの基礎知識を習得し、幅広い対象者に対してトレーニングの指導・助言ができるようになる。		
授業内容 授業形態 ※	<p>毎回テーマを設けて授業をします。</p> <p>また、学生が興味を持ったキーワードやテーマをもとに、グループワークやグループディスカッションを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アスリートの競技力向上 ・スポーツ愛好家の健康増進 ・子どもの体力・運動能力向上 ・高齢者の介護予防 		
評価方法 ※	定期試験60%、レポート・受講態度など平常点40%とし、総合的に評価する。		
評価基準			
テキスト	基本的にはプリントを配布します。		
注意事項			
授業シラバス			

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	植草学園大学	学部・学科名 ※	発達教育学部 発達支援教育学科
科目名 ※	バイオリテラシー入門	単位数 ※	2単位
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	火曜日・3限
キャンパス※	小倉キャンパス	教室※	基礎医学実習室
学修分野	教養教育科目（基礎科目）		
授業目的 ※	人間や社会に対する理解や生命の尊厳について深く認識し、高い道徳心と倫理観をもって行動できる。		
到達目標	<p>1.生き物や生命現象についての基本的な知識を習得する。</p> <p>2.生物の中に潜む法則性と生物間の多様性について、多様な側面から考えることができるようになる。</p> <p>3.日常の生活と、生物学との係わりや意義について理解できるようになる。</p>		
授業内容	<p>第1回 ガイダンス (目標1,2,3)</p> <p>第2回 細胞の構成成分1(炭水化物の種類と分子構造) (目標1,2,3)</p> <p>第3回 細胞の構成成分2(タンパク質の種類と分子構造) (目標1,2,3)</p> <p>第4回 細胞の構成成分3(脂質・核酸の種類と分子構造) (目標1,2,3)</p> <p>第5回 細胞の構成成分4(ミネラルの種類) (目標1,2,3)</p> <p>第6回 消化の仕組み(人は何故お腹がすくのかを考えていく。) (目標1,2,3)</p> <p>第7回 糖代謝 (目標1,2,3)</p> <p>第8回 タンパク質・脂質の代謝 (目標1,2,3)</p> <p>第9回 生物の進化と分類</p>		

<p>授業形態 ※</p>	<p>(目標1,2,3) 第10回 動物の進化と分類 (目標1,2,3) 第11回 脊椎動物の進化と分類 1 (目標1,2,3) 第12回 脊椎動物の進化と分類2 (恐竜をがどのように進化していったのかを探ることで、爬虫類の進化と分類について) (目標1,2,3) 第13回 哺乳類の進化と分類 1 (哺乳類全般の進化の新しい考え方) (目標1,2,3) 第14回 哺乳類の進化と分類 2 (哺乳類ありながら陸上から水中に生息場所を戻した鯨について) (目標1,2,3) 第15回 棘皮動物の進化と分類 (目標1,2,3)</p>
<p>評価方法 ※</p>	<p>期末試験 (70%) , 平常点 (10%) , ポートフォリオ・レポート等 (20%) の総合評価とする。</p>
<p>評価基準</p>	<p>1.生き物や生命現象についての基本的な知識を習得できたか。 2.生物の中に潜む法則性と生物間の多様性について、多様な側面から考えることができたか。 3.日常の生活と,生物学との係わりや意義について理解できたか。</p>
<p>テキスト</p>	<p>教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。</p>
<p>注意事項</p>	<p>生物学に基礎について、日常生活との関係から理解し、それに基づいて判断できるような資質の獲得を目指す。また、関連する分野の広い生物学全体を俯瞰したり、自分なりの生命観を持てるようになる。 対面での授業が見込める場合は、コロナ対策のため、基礎医学実験室に収容可能な36人を上限とする。 この科目は履修人数に制限があります。年度初めガイダンスのアナウンスをよく聞き、履修の手続きをしてください。</p>
<p>授業シラバス</p>	<p>https://118.21.56.20/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx</p>

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名 ※	米国史概論ⅠB	単位数 ※	2
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	火3
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定
学修分野			
授業目的 ※	<p><授業の概要></p> <p>本授業はアメリカを理解するため、通史を概観しながらアメリカのナショナリズム、政治理念、社会構造、文化、エスニシティ・人種、ジェンダーについて学ぶことを目的としている。「米国史概論Ⅰ」ではとりわけ建国期から革新主義の時代までを取り上げ、①アメリカ政治のリベラル・デモクラシー、②マニフェスト・デスティニーと国家の発展、③社会・経済と人種の関係性、以上3つのテーマについて、講義、リーディング課題、プレゼンテーション、ディスカッションを通して関心と理解を広げ、深めていく。</p> <p><到達目標></p> <p>学生は「米国史概論Ⅰ」を終えた時点で、以下の点について史実に基づいて説明することができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アメリカの根幹を為す価値の1つであるリベラル・デモクラシーについて。 2. エスニック・グループの関係性が、アメリカの人権意識や社会構造にどのような影響を及ぼしているのか。 3. 建国期から19世紀後半に至るアメリカ国家の発展について。 <p><授業の流れ></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 受講生は各授業前までに、課題のリーディング資料を読み、関心のある事項についてまとめてくる。資料はGoogle Classroomにアップロードされる。 2. 資料のサマリーについて、グループで15分間のプレゼンテーションを行う（1、2回程度）。プレゼンターは報告の最後に、授業内で行うディスカッションの論点を提示する。 3. 受講生は講師から講義を受ける。必要な箇所はメモを取る。 4. 講義後に受講生はプレゼンターと講師から出された論点について、ディスカッションを行う。各グループは議論した内容の概要について、授業内で報告を行う。 		
到達目標			
授業内容	<p>第1回☑イントロダクション</p> <p>第2回☑民地時代①</p> <p>第3回☑民地時代②</p> <p>第4回☑【オンライン】課題</p> <p>第5回☑アメリカ独立革命①</p> <p>第6回☑アメリカ独立革命②</p> <p>第7回☑共和国の建設①</p> <p>第8回☑共和国の建設②</p>		

授業形態 ※	第9回 罫場革命と領土の拡大① 第10回 罫場革命と領土の拡大② 第11回 罫北戦争と「再建の時代」① 第12回 罫北戦争と「再建の時代」② 第13回 罫びか時代から革新主義へ① 第14回 罫びか時代から革新主義へ② 第15回 罫括 対面
評価方法 ※	・授業への参加（リーディング、プレゼンテーション、ディスカッション、授業内での発言等）：40ポイント ・小テスト、課題：30ポイント ・最終レポート：30ポイント 合計：100ポイント
評価基準	
テキスト	
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/）からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。
授業シラバス	

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉経済大学短期大学部	学部・学科名 ※	ビジネスライフ学科
科目名 ※	健康科学概論	単位数 ※	2
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	(α h) 火・3 (β h) 木・2
キャンパス※	千葉経済大学短期大学部	教室※	(α h) 204 (β h) 204
学修分野	卒業認定・学位授与の方針中の基礎科目に位置づけられる。		
授業目的 ※	より望ましいライフスタイルを獲得するための知識を学びます。 特に、青年期というライフステージに必要な健康に関する知識を学んでいきます。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 健康とは何か？どのような状態をさすのかを理解する。 食事、運動（含む外傷、予防）、睡眠等に関する正しい知識を獲得する。 健康なライフスタイルを獲得するための様々な知識を獲得する。 		
授業内容 授業形態 ※	<p>第1回 オリエンテーション、健康とは/ W.H.O.の世界保健憲章（前文）に見る「健康」</p> <p>第2回 「体育」の定義/「知育」「徳育」「体育」と三育主義。</p> <p>第3回 「体力」の定義/防衛体力と行動体力、体力の構成要素</p> <p>第4回 様々な指数 (1)/ BMIによって何が評価できるのか。指数を算定・評価します</p> <p>第5回 様々な指数 (2)/ カウプ指数、ローレル指数によって何が評価できるのか。指数・評価を算定します</p> <p>第6回 様々な指数 (3)/ ブリンクマン指数によって何が評価できるのか。指数算定・評価します</p> <p>第7回 水分補給量/生活やスポーツ時に必要な水分量を算定します</p> <p>第8回 身体の構造と機能(1)/ 骨、関節、筋肉の構造と機能について学びます</p> <p>第9回 身体の構造と機能(2)/ 神経系の働き、乳幼児期における神経系の発達について学びます。呼吸器の働きについて学びます</p> <p>第10回 運動（スポーツ）外傷(1)/ 運動（スポーツ）時の外傷における救急処置について学びます</p> <p>第11回 運動（スポーツ）外傷(2)/ 運動（スポーツ）時の外傷における救急処置について学びます</p> <p>第12回 感染症/感染症の種類、感染経路、感染症予防の手段について学びます</p> <p>第13回 健康な生活設計/薬物、アルコール、たばこ健康について学びます</p> <p>第14回 ストレスと健康/ストレスの身体への反応、運動とストレスの関係について学びます</p> <p>第15回 まとめ/授業のまとめと振り返りを行います</p>		
評価方法 ※	小テスト（40%）、提出物・課題（40%）、授業への取り組み（20%）		
評価基準			
テキスト	安部孝／尾崎隼朗／川畑和也／清水洋生／宮田洋之／著『子どもの健康と遊びの科学 からだと心を育む術』（講談社、2022年）		
注意事項	特にありません。		
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/Syllabus/SyllabusConfirm.asp?cdsl=3200&nendo=2023		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名 ※	認知発達と英語教育A	単位数 ※	4
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	火4木4
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定
学修分野			
授業目的 ※	<p>本講座は、ことばの習得において重要な役割を担う乳幼児期・児童期に、「子どもの認知と言語がどのように発達するか」を学ぶことを目的としている。</p> <p>授業では、認知と言語の発達に関する種々の側面（概念の形成、語彙の発達、脳の機能と発達、文法の理解の発達、発達障害、心の理論など）を科学的な研究に基づいて学ぶ。さらにPiagetの発達理論やVygotskyの社会文化理論などの諸理論より、学習がどのように成立するか学ぶ。</p> <p>本講座において学生は、以上の認知発達の過程と特徴、および、子どもの心理と言語習得に関する知識を修得すると同時に、これらの知識をどのように英語教育の指導方法や指導技術に応用できるかをともに考える。</p>		
到達目標			
授業内容	<p>第1回☒講座の概要、目的、試験、評価について 序章 認知と言語の発達に関する展望</p> <p>第2回☒1章 早期のカテゴリー表象と概念</p> <p>第3回☒1章 早期のカテゴリー表象と概念</p> <p>第4回☒1章 早期のカテゴリー表象と概念</p> <p>第5回☒1章 早期のカテゴリー表象と概念</p> <p>第6回☒2章 初期の語彙</p> <p>第7回☒2章 初期の語彙</p> <p>第8回☒2章 初期の語彙</p> <p>第9回☒2章 初期の語彙</p> <p>第10回☒3章 脳と認知の発達</p> <p>第11回☒3章 脳と認知の発達</p> <p>第12回☒3章 脳と認知の発達</p> <p>第13回☒3章 脳と認知の発達</p> <p>第14回☒3章 脳と認知の発達</p> <p>第15回☒4章 子どもの文法理解の発達</p> <p>第16回☒4章 子どもの文法理解の発達</p> <p>第17回☒4章 子どもの文法理解の発達</p>		

	第18回 4章 子どもの文法理解の発達 第19回 5章 小児期における実行機能：発達と障害 第20回 5章 小児期における実行機能：発達と障害 第21回 5章 小児期における実行機能：発達と障害 第22回 5章 小児期における実行機能：発達と障害 第23回 6章 心の理解 第24回 6章 心の理解 第25回 6章 心の理解 第26回 6章 心の理解 第27回 8章 学習と認知発達における社会認知的見解 第28回 8章 学習と認知発達における社会認知的見解 第29回 8章 学習と認知発達における社会認知的見解 第30回 習・テスト
授業形態	対面
評価方法 ※	期末テスト 40% レポート 30% 宿題 30% 出席は必須。6回以上の欠席で不可。 欠席1回ごとに2点を差し引く。遅刻3回で1回休みとする。
評価基準	
テキスト	
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上 (https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/) からシラバス検索で該当科目を 確認をしてください。
授業シラバス	

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名 ※	スペイン語音声学Ⅰ	単位数 ※	2
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	火4
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定
学修分野			
授業目的 ※	<p>本授業では、まず、スペイン語の調音音声学を学ぶ。日本語の調音器官、調音点、及び調音法の用語も学ぶ。英語、日本語の音の違いも指摘する。次に、スペイン語の単語は次の音と一緒に発音されることが多いので（いわゆるリエゾンという現象）、これに慣れるためにスペイン語会話を聞き取って書く、即ちディクテーション（dictado; dictation）を行う。</p> <p>スペイン語音声学に関する豊かな知識と高度の運用能力を身につけるとともに、スペイン語のさまざまな音声事象についての理解を深めることを目指す。こうしたスペイン語音声学の基本的知識は、スペイン語教育にも欠かすことができないだろう。</p>		
到達目標			
授業内容	<p>第1回☑リエンテーション（授業の目的・進め方について） 概論：音声学とは</p> <p>第2回☑音器官、発音記号（IPA）、母音と子音、有声性（有声/無声）と調音点と調音法</p> <p>第3回☑スペイン語の母音、音節、アクセント</p> <p>第4回☑スペイン語の子音：北部体系とS音体系 閉鎖音：無声両唇音[p]と有声両唇音[b]、有声両唇摩擦音[β]</p> <p>第5回☑鎖音：無声歯(裏)音[t]と有声歯(裏)音[d]、有声歯(裏)閉鎖音[ɔ]</p> <p>第6回☑鎖音：無声軟口蓋音[k]と有声軟口蓋音[g]、有声軟口蓋摩擦音[ɣ]</p> <p>第7回☑擦音：無声唇歯音[f]と無声歯間音[θ]</p> <p>第8回☑擦音：無声歯茎音[s]と有声歯茎音[z]</p> <p>第9回☑声硬口蓋破擦音[dʒ]と有声硬口蓋摩擦音[ʒ]、有声硬口蓋接近音[j]</p> <p>第10回☑声硬口蓋破擦音[tʃ] 無声軟口蓋摩擦音[x]</p> <p>第11回☑音：両唇鼻音[m]と歯茎鼻音[n]と硬口蓋鼻音[ɲ]</p> <p>第12回☑音：歯茎たたき音[r]と歯茎ふるえ音(顫動音)[r̄]</p> <p>第13回☑音：歯茎側面接近音[l̪]と硬口蓋側面接近音[ʎ]</p> <p>第14回☑期の総復習とまとめ課題</p> <p>第15回☑スペイン語の歌、詩と音節構造</p>		
授業形態	対面		
評価方法 ※	<p>授業活動、リアクションペーパー…20%</p> <p>演習課題…40%</p> <p>ディクテーション…40%</p>		

評価基準	
テキスト	
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（ https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/ ）からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。
授業シラバス	

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名 ※	インドネシアの政治・経済Ⅰ	単位数 ※	2
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	火4
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定
学修分野			
授業目的 ※	<p><授業の概要> 本講義では、現代インドネシア政治経済を理解し、豊かな教養を有し国際社会に貢献する自立した人材を養成することを目指す。</p> <p><授業の目的と到達目標> インドネシアにおける政治あるいは民主主義の実際が如何なるものか理解することを目的とする。そのために、独立後インドネシアの政治体制を概観した上で、1998年以降の民主化の過程を検討する。軍の力を背景とした権威主義体制から、どのように大統領権限を制限し、自由な選挙を実現したか、そしてその結果および実際はどのようなものだったのかが焦点となる。</p>		
到達目標			
授業内容	<p><input checked="" type="checkbox"/>1回<input checked="" type="checkbox"/>ントロダクション: インドネシアの歴代大統領 第2回<input checked="" type="checkbox"/>立戦争後の困難とスカルノ体制 第3回<input checked="" type="checkbox"/>ハルトの開発独裁体制 第4回<input checked="" type="checkbox"/>主化運動とスハルト体制の崩壊 第5回<input checked="" type="checkbox"/>99年総選挙の実施と結果:アブドゥルラフマン～メガワティ 第6回<input checked="" type="checkbox"/>度改革(1): 憲法改正と大統領、国会、軍、警察 第7回<input checked="" type="checkbox"/>度改革(2): 地方自治と地方政府、地方議会 第8回<input checked="" type="checkbox"/>ハルト時代にたいする反省: 歴史問題 第9回<input checked="" type="checkbox"/>04年、2009年総選挙の実施と結果、その後の政治 第10回<input checked="" type="checkbox"/>挙スタイルの変化と民主化の矛盾 第11回<input checked="" type="checkbox"/>スラムの政治コモディティ化 第12回<input checked="" type="checkbox"/>14年、2019年総選挙・大統領選挙のポリティクス 第13回<input checked="" type="checkbox"/>一次ジョコウィ政権下でのイスラム勢力と選挙への動き 第14回<input checked="" type="checkbox"/>二次ジョコウィ政権の課題 第15回<input checked="" type="checkbox"/>とめと今後の課題</p>		
授業形態 ※	対面		
評価方法 ※	筆記試験		
評価基準			
テキスト			

注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（ https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/ ）からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。
授業シラバス	

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	敬愛大学	学部・学科名 ※	経済・国際・教育学部
科目名 ※	政治学	単位数 ※	2
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	火曜・4限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	—
学修分野			
授業目的 ※	<p>現代政治学は、議会制民主主義の制度と運用について、その役割や問題点を正確かつ効果的に分析することを目的に体系化されています。したがって政治学には、議会制度、選挙制度、政党制度、行政と官僚制度といった頻出テーマがあります。一方で今日、こうした諸制度の機能不全が叫ばれ、デモや住民投票など、有権者の直接的な政治参加の重要性も指摘されるようになってきました。また政治家のみならず一般市民も公共的問題に関する熱心な議論に参加すべきだと言われたりします。こうした現代的な問題意識の変化に合わせて、政治学も日々、変化を遂げています。本講義では、上記のような諸制度の解説に加えて、新しい民主主義論、市民社会論、地方自治論、メディアと政治の関係についても、幅広く多面的に学んで行きたいと思えます。選挙権年齢の18歳に合わせてこの4月から成人年齢も18歳となりました。みなさんは有権者、成人、主権者です。この授業を通して、適切な政治的知識を身につけ、健全な政治意識を持ち、そして政治に積極的に参加する市民的資質を育成します。周囲と意見交換し、問題解決に向けてリーダーシップを発揮できる政治的知識を習得します。卒業後も、若き政治リーダー、骨のあるジャーナリスト、夢のあるソーシャル・アントレプレナー、地域の課題に取り組むコミュニティー・デザイナー、そして良き市民として活躍できる人材育成を目指します。</p> <p>講義は対面形式。</p>		
到達目標			
授業内容 授業形態 ※			
評価方法 ※	①レポート、②授業・ディスカッション、模擬選挙での積極的な参加・発言		
評価基準	①レポート(期末レポート、小レポート、授業後のリアクション・ペーパー)50% ②授業・ディスカッション、模擬選挙での積極的な参加・発言50%。		
テキスト	特に指定しません。 (参考文献)砂原庸介他著『政治学の第一歩(新版)』(有斐閣、2020年) また初回授業時に参考文献リストを配布します。		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉経済大学	学部・学科名 ※	経済学部・経営学科
科目名 ※	現代企業論Ⅰ	単位数 ※	2
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	火-4
キャンパス※		教室※	309
学修分野			
授業目的 ※	<p>現代企業を取り巻く環境は目まぐるしく変化しています。環境の変化に適応できない場合、その企業の存続は脅かされることになるでしょう。本講義では、企業経営における基礎的な内容を押さえつつ、コーポレート・ガバナンス、デジタルプラットフォーム、企業の社会的責任、コンプライアンス経営など、現代企業が対応しなければならない今日的課題について学修していきます。本講義の狙いは、現代企業が直面する諸問題に関して体系的な知識を獲得し、それらの問題を解決する力を養うことです。本講義では、ケーススタディを積極的に活用しながら、現代企業について様々な観点から理解を深めていきます。</p> <p>なお、この科目は卒業認定・学位授与の方針のうち、特に【(知識、技能)(思考力、判断力、表現力等)】に資する科目です。</p>		
到達目標	<p>本講義の到達目標は、以下の4点です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 株式会社の構造やコーポレート・ガバナンスなど、現代企業の仕組みについて説明できる。 2. デジタルプラットフォームを用いた経営戦略について説明できる。 3. コンプライアンス経営について説明できる。 4. 現代企業が抱える諸問題について自分の意見を論じることができる。 		
授業内容 授業形態 ※	<p>第1回 ガイダンス：現代企業論Ⅰを学ぶ意義について</p> <p>第2回 株式会社の構造</p> <p>第3回 コーポレート・ガバナンス制度の変遷</p> <p>第4回 コーポレート・ガバナンス体制の構築</p> <p>第5回 企業グループの形成と変容</p> <p>第6回 サービスマーケティング①：サービス商品の特徴</p> <p>第7回 サービスマーケティング②：サービス組織のマネジメントと戦略</p> <p>第8回 デジタル時代への対応 (&中間試験)</p> <p>第9回 デジタルプラットフォームの構築①：デジタルプラットフォームの特徴</p> <p>第10回 デジタルプラットフォームの構築②：デジタルプラットフォームの戦略</p> <p>第11回 企業の社会的責任とは何か</p> <p>第12回 企業にコンプライアンス体制を構築させる仕掛け①：行政管理手法の転換</p> <p>第13回 企業にコンプライアンス体制を構築させる仕掛け②：内部告発の有効性</p> <p>第14回 個人データをめぐる企業の倫理的課題</p> <p>第15回 経営哲学の意義</p>		
評価方法 ※	<p>成績は、リアクションペーパー（30%）、中間試験（30%）、期末試験（40%）によって評価します。リアクションペーパーや中間試験に対しては、毎講義の冒頭でフィードバックを行います。</p>		

評価基準	
テキスト	指定なし
注意事項	<ul style="list-style-type: none">・本講義では、必要に応じて、グループディスカッションを実施します。・本講義は、対面授業の場合、座席を指定して実施します。
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/syllabusgaku/default.asp?cdga=1

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉経済大学短期大学部	学部・学科名 ※	ビジネスライフ学科
科目名 ※	自然科学への招待A	単位数 ※	2
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	火・4
キャンパス※	千葉経済大学短期大学部	教室※	201
学修分野	卒業認定・学位授与の方針中のベースステージに位置づけられます。		
授業目的 ※	<p>「物質・原子・原子核・素粒子・・・（ミクロの世界）」</p> <p>自然の世界は、大きさのスケールでいえば極微の素粒子から極大の宇宙まで広がり、時間のスケールでいえば宇宙の誕生からその死まで続いています。自然科学は、これら自然に存在するものすべてを対象とし、それらの構造や仕組み、変化の仕方を調べ、できるだけ簡単な法則でしかも統一的に理解しようとする学問です。</p> <p>広い意味の自然科学は、数学や理科（物理・化学・地学・生物など）に相当しますが、ここでは特に理科（物理・化学・地学）に関わる内容を扱います。“理科”というと難しいというイメージを抱くかもしれませんが、授業では難しい数式や計算は使いません。スライドや動画を使って、できるだけわかりやすく概念を伝えるような説明を行うつもりです。</p> <p>「自然科学への招待A」では、光や音、原子や原子核、放射線、素粒子といった「小さな（ミクロ）世界」に目を向けます。また毎月の星座や天文現象なども紹介します。</p>		
到達目標	<p>① 社会人として知っておくべき理科の知識と教養を身につける。</p> <p>② 身近なものごと・現象の理学的理解ができるようになる。</p> <p>③ 公務員試験「自然科学」分野の準備となる。</p>		
授業内容	<p>以下の内容で進める予定です。</p> <p>(履修者の状況により適宜変更する可能性もあります。)</p> <p>第1回 自然界のスケール</p> <p>第2回 数値の表し方</p> <p>第3回 単位</p> <p>第4回 光と色</p> <p>第5回 虹と青空</p> <p>第6回 電磁波</p> <p>第7回 音</p>		

授業形態 ※	第8回 運動・力・重力 第9回 物質と分子・原子 第10回 固体・液体・気体 第11回 元素の周期表 第12回 原子の構造 第13回 原子核 第14回 核分裂と核融合、放射線 第15回 素粒子 講義を中心として、PCによるスライド・資料提示を行います。
評価方法 ※	授業への取り組みの能動性（30%）、期末試験（70%）により総合的に評価する予定です。
評価基準	
テキスト	指定なし。 毎授業時に資料プリントを配布します。
注意事項	特になし
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/Syllabus/SyllabusConfirm.asp?cdsl=1520&nendo=2023

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	敬愛大学	学部・学科名 ※	経済・国際・教育学部
科目名 ※	ボランティア活動	単位数 ※	2
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	火曜・5限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	—
学修分野			
授業目的 ※	ボランティア活動や社会貢献についての基礎的知識・原理原則並びに地域ボランティア活動の種類・活動方法を学び、一人ひとりの学生が、自己にあった地域ボランティア活動を見つけだし、社会人・企業人としての心構えを学ぶ事を目的とする。(DP、CP)		
到達目標	ボランティア活動の基礎知識を講義により習得します。		
授業内容 授業形態	授業は、「対面授業」と「オンライン授業(オンデマンド型)」を併用して行います。スケジュールについては、クラスプロファイルを通じて学生に知らせます。対面授業が難しくなった場合は、全てオンデマンド型のオンライン授業を実施する場合があります。毎回、各講義ごとの理解度・到達度を確認するためにKCNを使っての小テスト・課題を実施し、KCNを通じて評価フィードバックを行います。		
評価方法 ※	平常点(授業内に適示おこなうリアクションペーパーや任意課題レポート)20%、確認試験80%で評価します。確認試験の解答は試験終了後に解説します。		
評価基準	各講義での小テスト・課題で50%、期末試験50%で評価。		
テキスト	『初めて学ぶ地域ボランティア活動』(KT福祉研究所出版部)		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

※は必須記入事項